

やまなし

2006.12.15

vol.4

no. 2

contents

- 2 図書館情報リテラシー教育への取り組みについて
- 4 利用者の声
- 5 学生にすすめる本
- 6 「利用者アンケート」に対する図書館の取り組み状況
- 7 図書館トピックス

中学生の職場体験学習

今後のイベント紹介

リプリント日本近代文学

(本学近代文学文庫所蔵分) 刊行

The Yamanashi
Bulletin of the University of Yamanashi Library

図書館情報リテラシー教育への取り組みについて

ミズカミ ヨシコ
図書課情報サービスグループ 水上佳子

昨今、電子ジャーナルやデータベースをはじめとする学術情報の多様化、電子化の急速な進展は目覚しく、本学附属図書館においても従来の冊子資料に加え、電子資料についても一層の充実を図り、電子図書館機能の強化を行ってきました。このような冊子資料と電子資料が混在する今日の状況下において、図書館では従来から行ってきた利用者教育を見直し、対象別、学年別等を念頭に入れた図書館情報リテラシー教育への取り組みを進めています。

本稿では、甲府キャンパスにおいて、学生を対象とした図書館情報リテラシー教育の取り組みについて述べていきたいと思えます。

平成16年7月実施した図書館利用者アンケートで「電子ジャーナル、データベースを知っていますか」という問いに「知らない」との回答は、電子ジャーナルで全体の64%、データベースで全体の54%という結果となりました。利用するか否かについては、利用者の身分・学問分野によって結果がわかれるのは当然となりますが、存在さえも知らないという認知度の低さに、利用者への広報や利用者教育に問題の一端があるのではないかと指摘されました。

これまで行ってきた利用者教育では、4月当初、新入生を対象とした説明形式の図書館利用ガイダンスを行い、図書館の基本的な利用を習得するために、図書館の施設、資料の内容・検索方法、利用方法を説明しています。しかし、伝える情報量に対して時間が短い、説明形式であるので受身の形で身にならない、内容が概略的であるので必要時にならないと学生自身が必要度を感じない、通常の授業が終了する5限に設定するので出席率が悪い、といった反省点があります。また、2年生以上の学生への利用者教育は、個別対応となり学生自身の意欲の差により、入手できる情報の差が生じていることは否めません。

そこで、学生への図書館利用者教育を図書館の基本的な利用方法を伝えるだけでな

く、大学の情報リテラシー教育の中に位置づけ、図書館の資料を使って情報をどのように入手するか、その探索方法を教え、情報の評価及び著作権等の情報倫理の理解も含めて、情報を収集し活用する技能の習得の支援を行なうことを計画しました。

初年度となった平成17年度は、教育人間科学部及び医学部の1年生の情報関連の必修授業1コマにおいて、図書館から電子資料を使ってどのように情報を入手するかについて実習形式の講義を実施しました。入学当初から新入生図書館利用ガイダンスと情報検索実習により図書館の総体的な利用方法を習得することで、学習活動と図書館が上手に連携していくことが期待されるものです。

この試行を踏まえて、同年度後期に館長、研究開発推進室員の教員2名（教育人間科学部・工学部各1名）、図書館員3名で構成された図書館情報リテラシー教育WGを立ち上げ、授業計画の策定、内容の検討を行い、平成18年度からは、さらに加えて工学部1年生の情報関連の必修授業1コマ（一部の学科を除く）でも情報検索実習を実施しています。

図書館情報リテラシー教育は、以上のような1年生だけに留まらず、学年進行に伴い、基礎編から応用編と体系的に構成されている必要があります。1年生への説明を基礎編とすると、卒業研究に入る4年生以上を対象とした説明が応用編となります。そこで、平成17年度の後期に卒論生、大学院生を対象として文献検索説明会を実施し、さらに平成18年度初頭、実践的に学ぶことを目的として、実習形式で文献検索説明会を実施しました。

また、今年度は学科からの要望で、学科ごとに行う教室仮配置のオリエンテーションにおいて実習形式の説明を行い、1月には平成17年度同様、次年度卒論生、大学院生を対象とした説明会を行う予定となっています。

このような取り組みの中で、図書館情報

リテラシー教育WGは、図書館情報リテラシー教育を体系的に整理し、利用者が必要な情報を的確に入手できる「道しるべ」となる情報探索のツールとしてWeb版テキストの作成作業をしています。作業には、現場で目録や受入を担当している資料担当の図書館員もサブメンバーとして参加しています。この作業は日常の業務をしながらの膨大な編集作業となりますので、かなりの負荷となりますが、図書館員が自館の資料をもう一度一から見直すよい機会ともなっています。

Web版テキストは、図書館のホームページ上にアップし、必要な項目に対して応えられる機能を持ちながら、Webのリンク機能を使って、関連項目にも導く形式を想定しています。また、テキストはアップしてからも継続してメンテナンスを行い、図書館情報リテラシー教育の補助教材としての役割も担っていく予定です。

来年度から新入生対象の図書館利用ガイドランスは、全学共通教育改革により人間形成科目の中の1コマとして組み込まれる予定



4月17日

新入生図書館利用ガイドランス
総合情報処理センター 多目的ホール

です。附属図書館主催のガイダンスとは違い、すべての学生に共通の情報が提供できることが期待されます。

言うまでもなく図書館情報リテラシー教育は教育支援に位置づけられ、教育を担当する教員との協力体制・授業との連携が基本となっています。授業にあたっては、教員との打ち合わせを密にし、授業（説明）対象者のニーズに沿った質の高い支援サービスを提供していく必要があります。それには、図書館員のスキルアップを常に図書館組織として取り組んでいくことが肝要かと思えます。

なお、本稿は甲府キャンパスでの取り組みを中心に述べてきましたが、医学分館では、医学の専門分野に特化した形で図書館情報リテラシー教育に取り組んでいます。



12月6日

工学部応用化学科3年時生リテラシー教育
総合情報処理センター 第1実習室



『 私にとっての図書館 』

大学院医学工学総合教育部
物質・生命工学専攻 修士課程1年次生

ミカミ アツシ
三上 篤

今年の春、私は大学院に進学した。もともと大学も山梨大学であったことから図書館の利用は学部生時代からの長いものになっている。

私にとっての図書館の役割は学部生時代と大学院生になった今とは大分変わっている。学部生時代では実家生である私にとって図書館は大学内で落ち着いて勉強できる数少ない場であった。グループで勉強できる場と個人スペースとに分かれている図書館は友達とレポート作成する時でも、試験前の追い込みをかける時であっても活用でき大学生活の支えになった。

大学院に入学してからは研究室に配属されたこともあり、勉強の場は研究室に移った。研究室では今までのような勉強ではなく、論文を読むことで研究の方向性や最新の技術、知識を手に入れる。この論文を得る手段として図書館を利用するようになった。図書館には電子ジャーナルというものがあり、いろいろな分野の論文を検索、閲覧することができる。また、図書館で得られない論文も図書館から他機関へ発注することで手に入られる。研究を進める上で図書館は無くしてはならないものなのだ。

図書館には視聴覚室とコンピュータ室があり、時間つぶしや友達との待ち合わせに利用した事も多々あった。また、武田信玄や樋口一葉などの地域に密接したコーナーを設けてあるなど山梨という土地にふれることのできる場にもなっていたと思う。私にとって図書館は勉強だけではなく、娯楽や交友とも共有できる重要な場所なのだ。



『 留学生の目を見た図書館 』

医学部産婦人科学講座
(日本学術振興会外国人特別研究員)

シン リキョウ
秦 立強

わたしのイメージの中に「大学の図書館」というものは、歴史的な大学は必ず有名な学者の遺聞逸事を繋ぐ古く大きな建物であり、新しい大学も立派な建物を持っています。

2000年、わたしは夢をもって山梨大学医学部(当時、山梨医科大学)に来ました。研究には欠かせない重要な施設として、さっそく図書館に行ってみようと思いかけて行きました。そして、初めて見た時、正直に言えばこんな小さい図書館で、果たして研究に役に立つのだろうか、内心疑問を抱きました。

それから数日後、図書館が所蔵していない文献をどうやって手に入れたらよいのかと先生にお聞きしました。先生は一枚の紙を出して、必要な項目を書いて図書館のカウンターに出せば、一週間ほどで入手できると教えて下さいました。その時、図書館の便利さをはじめ実感しました。わたしは学生時代、文献を求めのためにわざわざ上海に行って、二日もかかって各大学の図書館を探し回った経験がありましたから。今、論文を探すのは更に便利になりました。電子ジャーナルに莫大な種類の雑誌が提供され、図書館に行かなくても研究室で簡単に入手できるようになったからです。もし電子ジャーナルに収録がなければ、MyLibraryで文献複写の申込みもできます。

もう一つ、わたしは図書館で、文献を読んだり、論文を書いたりするのが好きです。疲れた時、本棚に並んでいる魯迅全集や巴金文集の一冊を取って、文豪の文章を読むのは何よりも積極的な休息になります。

また、最近、パソコンコーナーに留学生用パソコンが2台配置され、多くの留学生が利用しています。わたしたち留学生は図書館やそれに関係する大学の皆さんの温かい心づかいに、この場をお借りして感謝申し上げます。

中国には「読書破万卷、下筆如有神」という言葉があります。読んだ本が一万冊を超えれば、神様が助けてくれたような文章が書けるようになるという意味です。研究も全く同じです。本の拠点としての図書館、そして図書館のサービスをうまく利用すれば、自分の研究も深まり、その成果を世界に発信できると思います。



『フェルマーの最終定理』

サイモン・シン著 青木薫訳 新潮社

 教育人間科学部
ソフトサイエンス講座

 イシガキ タケヒサ
石垣 武久

ここ数年間の私的ベスト本です。この本は、ピュタゴラスの定理に端を発し17世紀に発見されたフェルマーの最終定理が1993年にワイルズによって証明されるまでを描いています。ピュタゴラスとフェルマーの他に、オイラー、ガウス、ラッセル、ゲーデル、ガロアなど有名な数学者の仕事や逸話が次々と紹介され、フェルマーの最終定理だけにとどまらない壮大な数学史になっています。と書くと、小難しい教科書みたいな本を思い浮かべるかもしれませんが、さにあらず。淡々とした史実の積み重ねがドラマチックなストーリーとなり、完全数、友愛数、「なんらかの意味を持つ数学史上最大の数」とか「天文学者と物理学者、数学者の小話」（どんな話かは、紙幅が狭すぎるのでここに記すことはできません）など、読んだ後、誰かに話したくなってしまふような話題が数多く出てきます。最後にある「訳者あとがき」も訳者の思い入れがよくわかり、ここから読み始めても良いかもしれません。

この本は最近、文庫でも発行されました。図書館で借りるよりも自分で購入して読むことをお勧めします。

これを読んで数学的な（数学そのものではなく、あくまでも数学に関わった縦書き右開きの）本に興味を持ったなら、小説では映画化もされたベストセラー『博士の愛した数式』（小川洋子著）、エッセイではちょっと古いですが『若き数学者のアメリカ』（藤原正彦著）を手にとってみましょう。

『フェルマー』の著者、サイモン・シンの最新刊『ビッグバン宇宙論 上・下』も好著です。

所蔵案内：『フェルマーの最終定理』
本館2階 一般書架
分類：412.2



『「知識人」の誕生1880-1900』

クリストフ・シャルル著 白鳥義彦訳 藤原書店

 医学部
解剖学講座第2教室

 タケダ セン
竹田 扇

“J'accuse...!” 「われ弾劾す」。ゾラ (Zola, E.) はドレフュス事件に於いてこの様な言明をもって国家理性 (raison d'Etat) への対峙を表明した。この檄文が反ドレフュス派のバレス (Barrès, M.) に依り「知識人の抗議文」と呼ばれた事から「知識人」という言葉が誕生したと考えられている。本書は古典的「知識人」の成立をドレフュス事件 (1894) を原点として捉え、その存在を政治学的・社会学的・歴史学的に分析した慧眼の作である。著者は「知識人は自己をマニフェストする」と定義し、その社会的役割を権力構造との対立という枠組で分析し、最後に今日のヨーロッパに於ける「知識人」の現状をスケッチする事で彼の提示した命題の価値を再確認するという作業を行っている。

今日の日本に於いては「知識人」という言葉で表象される集団がほとんどその力を失い、言葉の響き自体に一種のアナクロニズムを感じさせる。しかしながら価値の判断基準が多様化し、著しく専門分化した現代に於いてこそ、政治の場とは異なるところから専門的偏狭に囚われず総合的見地に立って、「自らの考えをマニフェスト」する新たな「知識人」の誕生が要請されているのではないか。本書は、曾ては「知識人」の一翼を担っていた筈の学生 (大学生) にとって自らの在り方を自省するよい契機になるであろう、と考え推薦した。訳文は全体的に硬めであるが、原文の雰囲気をよく伝えている。

所蔵案内：『「知識人」の誕生1880-1900』
医学分館2階 第2閲覧室
分類：361.84



「利用者アンケート」に対する図書館の取り組み状況

附属図書館では、図書館の利用等に関する自己点検を行うために本学の学生・教職員を対象として、平成16年7月から8月にかけて「附属図書館利用者アンケート」を実施しました。

利用者の皆さんから寄せられた要望等に対して、この2年間どのような検討および改善を行ってきたかを報告します。

附属図書館では、さらなるサービスの向上を図るため、常に皆さんのご意見を受け付けています。ご要望等がありましたら、館内設置の投書箱（本館は「利用者の声」、医学分館は「アンケートボックス」）または図書館ホームページの「ご意見・ご要望」へお寄せください。

◆ 図書館施設・設備について

- ・本館、医学分館とも空調に対する改善要望があった。

◇ 図書館施設の状況について

両館の建物および空調設備は、老朽化が進んでいますので、満足できる学習環境の提供には限界がありますが、次のとおり現状で出来る最大限の対応をしています。

【本館】

本館の空調に対しては、気温を見ながら冷暖房を入れていますが、利用者の皆さんからの要望に対しては、職員が館内温度を確認しながら対応をしています。

【医学分館】

医学分館の網戸の設置については、現在の閲覧室の窓の構造上、無理があります。現在、休日・夜間における冷暖房機の運転は、セルフタイマー方式で可能ですので、ご利用ください。ただし、老朽化しているため適温にならない場合もあります。空調設備の更新については、関係部署へ依頼しています。

◆ 環境面の希望について

- ・「静かな利用環境の確保を」という意見があった。

◇ 図書館利用のマナーについて

利用マナーの喚起については、日頃から職員により呼び掛けていますが、気持ちよく利用出来るよう、お互いにマナーに心を配り、図書館を有効に活用してください。

- ・本館、医学分館とも飲食コーナー等の設置要望があった。

◇ 飲食コーナーについて

現状の館内に、リフレッシュコーナー、自動販売機を設置するスペースの確保はできませんが、本館の改修計画において、飲食が可能なスペースではなく、1階のコミュニティゾーンの中にリフレッシュコーナーを設ける予定となっています。

◆ 資料面の希望について

- ・新しい資料の充実、教養図書・雑誌の充実の要望があった。

◇ 資料の充実について

学生用図書の充実については、平成18年度から3年間、毎年学生一人当たり約1冊を購入する予算が認められました。購入希望図書については、「学生リクエスト図書購入希望票」へ必要事項を記入の上、本館はカウンターへ提出、分館は館内設置のアンケートボックスへ入れてください。

中学生の職場体験学習

附属図書館では、8月21日、22日の2日間、昨年に引き続き山梨大学教育人間科学部附属中学校の生徒さん5名の職場体験学習を受け入れました。図書館職員より大学図書館の概要説明及び館内見学後、実際にカウンターでの図書の貸出・返却処理、書架整理、図書装備、文献複写等の業務を体験しました。2日目には、医学分館にも見学に行きました。

体験を通して、図書館の仕事への理解を一層深めたようです。



山梨大学附属図書館・近代文学文庫展示室開室記念講演会 「本を語る」開催



附属図書館では、10月14日、山梨県立文学館館長近藤信行氏・放送大学教授野山嘉正氏・国文学研究資料館教授谷川恵一氏を講師に迎え山梨大学附属図書館近代文学文庫展示室開室記念講演会「本を語る」を開催しました。この近代文学文庫開設時の逸話や明治期の文学について3時間に渡って講演を行いました。講演会終了後、遅い時間にもかかわらず展示室で熱心に資料をご覧になる参加者もいました。

なお、現在展示中の「『明星』とそこに集った詩人たち」のパンフレットを作成しました。常設展示室に置いてありますので、ご自由にお持ちください。

山梨大学附属図書館医学分館・生と死のコーナー関連行事

「遺族の悲嘆とグリーフケア

ー「ちいさな風の会」(子を亡くした親の会)での18年の実践を中心にー」開催

医学分館では、今年で5回目となる”生と死のコーナー”関連行事として、山梨英和大学教授・若林一美氏を講師に迎え、「遺族の悲嘆とグリーフケアー「ちいさな風の会」(子を亡くした親の会)での18年の実践を中心にー」と題し、10月25日(水)に講演会を開催しました。

若林氏は「ちいさな風の会」の世話人を務めており、講演では、遺された家族の「死を受け止める辛さ」や「時間では癒されない悲しみ」を会員の手記や会での言葉を通して紹介し、医療者や周囲の人の遺族へのかかわり方やケアについて話されました。当日は、学生や病院スタッフ、地元住民の方などを含む約80名が聴講し、講師の話にじっと耳を傾けていました。参加者からは、「遺族の思いを知り、思いやりを持って接していきたい」など多くの感想が寄せられました。



リプリント日本近代文学（本学近代文学文庫所蔵分）刊行

この度、本学近代文学文庫で所蔵している資料が、国文学研究資料館より「リプリント日本近代文学」シリーズ（2007年1月予定、発売：平凡社）として刊行されます。このシリーズは、国文学研究資料館が、良質で研究価値の高いものの影印をオンデマンド方式により出版し、国内外の幅広い研究者・読者にできるだけ簡便なかたちで提供しているものです。

おもな出版予定書目

- ・魯国奇聞 烈女の疑獄（杉田策太郎訳）
- ・露国虚無党事情（西河通徹訳）
- ・東海遊侠伝（山本鐵眉著／成島柳北閲）
- ・新体詞選（山田美妙）
- ・新体詩歌 自由詩林（植木枝盛）
- ・扇頭小景（小島烏水）
- ・英国孝子ジョージスミス之伝（三遊亭円朝）
- ・小説神髓（坪内逍遙）

今後のイベント

「子どもと絵本・連続講座」第5回（最終回） 講座「絵本の世界の生（いのち）と性（ジェンダー）」

日時：平成19年1月16日（火）14:00～16:00

場所：山梨県立文学館 研修室

講師：山梨大学助教授 秋山 麻実 氏

絵本は子どもたちに想像の世界への扉を開き、また現実の世界の意味を与えます。

絵本の世界で生きる時間は、子どもにとってどのような意味を持つのでしょうか。

命や性の問題と絡めながら考えます。

主催

山梨大学附属図書館子ども図書室
山梨県教育委員会社会教育課

※この講座は、「山梨県子ども読書活動推進実施計画」に基づき、山梨県教育委員会と山梨大学の共同企画により行われるものです。第5回は今年度最終回です。

*事前にお申し込みが必要です。定員に達した時点で締め切らせていただきます。

お申込み・お問い合わせ先

山梨県教育委員会社会教育課
社会教育振興担当

〒400-8504 甲府市丸の内一丁目6-1

TEL 055-223-1771 FAX 055-223-1775

E-mail: shakaikyo@pref.yamanashi.lg.jp

図書館利用マナー

大学生のモラルが低下していると言われていますが、図書館内での携帯電話使用、大きな声での雑談、ジュース・お弁当などの飲食は、図書館利用のマナーに反する行為であり、他の利用者にも迷惑がかかります。気持ちよく図書館を利用することが出来るよう、お互いに心遣いを忘れず、大学生活において図書館を有効に活用してください。

お知らせ

■ 学外の方への利用案内

本館及び医学分館は、山梨大学以外の大学生をはじめ一般社会人の方々も利用できます。詳細については、<http://www.lib.yamanashi.ac.jp>をご覧ください。本館 Tel:055-220-8066（情報サービスグループ）、医学分館 Tel:055-273-9357（医学情報グループ）にお問い合わせください。



山梨大学附属図書館報
「やまなし」
第4巻第2号

2006年12月15日 発行

編集：館報編集委員会

発行：山梨大学附属図書館

〒400-8510

甲府市武田四丁目4-37

TEL 055-220-8063

●表紙撮影：図書課情報サービスグループ職員 飯野 貴子
場 所：甲府東キャンパス 工学部正門前庭